

検査値測定を依頼し安全な薬物治療へ貢献

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は検査値の測定を医師へ依頼し副作用モニタリングを行うことで安全な薬物治療へ貢献できた例を紹介します。

患者背景

- ▶腎癌、転移性骨腫瘍に対して放射線治療目的で本日入院
- ▶膵炎の既往あり

Aさん



薬剤師が持参薬確認に訪室

患者 Aさん



Aさん、こんにちは。お薬の確認をさせていただきます。
持ってこられているお薬はすべて使用している薬ですか？



そうそう。飲みよる薬は全部もってきたんよ。
出してもらった分はしっかり飲みよるよ。

リピートル®（アトルバスタチン）とベザトール SR®（ベザフィブラート）は**原則併用禁忌**に該当するけれど、Aさんは膵炎の既往があり、長年併用しているようだ。
しかし...**横紋筋融解症**には注意が必要！！

Aさんが持参されているリピートル®とベザトール SR®ですが添付文書上では**原則併用禁忌**に該当します。しかし膵炎の既往もあり長年服用されているようです。やむを得ず継続する場合は横紋筋融解症のモニタリングを行うために、定期的にクレアチンキナーゼ（CK）値の測定をお願いできないでしょうか？



医師



中止するのは難しいと思うので、入院中は定期的にCKを測定しましょう。症状が出ていないか注意してみています。

速やかに測定されたCK値は正常範囲内であった。

その後、定期的にCK値のモニタリングが行われ横紋筋融解症の徴候なく経過した。